



広大な現場での測量でも、高精度にミスなく、そして迅速に遂行するという厳しいニーズ。それに答えるツールとして、FOCUS 35を評価くださっているのが(株)極栄建設様です。弊社のFOCUS 35が、貴重な戦力となって測量現場を効率化したお話を金城様にお聞きしました。

「導入要因のひび割れマッピング 業務で予想以上のスピード化」

空港滑走路のひび割れ位置と形状調査を受注するにあたり、ひびの座標値を記録できる器械を多方面にわたって検討しました。滑走路上に広がる数万単位のひび割れの特徴点を測量し、CADで結線して写真と重ね合わせていく作業で、最優先だったのは効率化です。現場は半径200mもの広大な敷地だったため、マニュアルTSではミラーマンが指示に追いつかず、効率が上がりません。また、求められた精度は3mm幅。5年前のデータと比較して3mm以上広がったひびが修繕の対象でしたので、ミリ単位で認識できないドローンは採用に至りませんでした。

こうして、ワンマン作業で測量効率が高く、精度も高いFOCUS 35を採用することにしました。実作業では1台だけでは足りず、もう1台レンタルしたことで、マニュアルTSの10倍の効率で作業を終えることができました。

「FOCUS 35は、一人のスタッフ。 作業計画の幅が広がった」

石油基地でタンクを新設するという案件では、周辺の現況図作成にFOCUS 35を使用しました。マニュアルTSだと2名で7日ぐらいかかる作業量を、FOCUS 35だと2日間でこなし、2000点を超えるデータが取れました。また、マニュアルTSでは作業後にミスが分かり再測になることもありますが、FOCUS 35だとデータを現場確認できるので安心して作業が続けられます。つまり、FOCUS 35が一人分の仕事をしてくれるので、二人で三人体制の仕事ができるのがいいですね。

また、暗渠の杭出しの現場では60cm幅の側溝をRで組んで計測しましたが、路線測設で内側に何mm誤差があるかすぐ分かり、一人で作業できました。測設の間に、他の一人は別の仕事を進められたため、作業全体が予定よりも早く完了できました。ここでもFOCUS 35が一人分の仕事をし、二人で三人体制の仕事をしたのがよかったです。

FOCUS 35の可能性を探りたい

執行役員常務 金城 正憲さん

私たちが得意なのは、設計データです。擁壁や側溝の路線を自分で組み、任意で座標を組んだり、型枠を計測する際は下部工の断面を作って高さや位置を測量したりしています。FOCUS 35には、きっと我々の業務に最適な使い道があると思っているので、これから様々な業務で使いながら、それを探求していくつもりです。



左:島田幸作さん 右:金城正憲さん